科目番号	52003	分類	基礎助産学	履修者	高度実践助産コース	学年
科目名	助産薬理学特論 （Advanced Midwifery Pharmacology）					1 配当ｾﾒｽﾀｰ 前期

担当者	○朝澤 恭子　他３名	区分	助産師免許取得プログラム	必修	単位	1	時間数	15

授業の概要および目標	学位授与の方針との関連	
【概　要】 薬理学の基礎（作用機序、代謝経路、半減期等）とともに、妊産褥婦を対象とした和漢薬物の効用、副作用、併用禁忌、拮抗作用、投与方法、服用方法等について解説し、妊婦や授乳婦における薬物使用上の管理および留意点について理解を深める。これらをふまえ、医師の包括的指示があれば、一定の範囲の薬物を助産師が自律して投与・管理できる能力を育成することを目標とする。さらに思春期から更年期までの女性の健康を促進する視点から、経口避妊薬、月経前症候群や更年期女性のマイナートラブルなどに良く使用される和漢薬についての知識を深める。また、薬物治療に際して求められる助産師としての倫理とは何かについて学修する。 【目　標】 1．薬理学の基礎を学び適正な薬物治療の基本について説明できる。 2．妊婦・授乳婦に頻用される薬剤について説明できる。 3．妊娠中・授乳中の薬物療法について説明できる。	○	1.自律して自然分娩の支援ができる能力
	○	2.院内・院外助産システムを担うことができる能力
	○	3.女性の生涯にわたる健康を支援できる能力
	○	4.周産期の救急時に対応できる能力
	○	5.他職種と連携・協働し、質の高い助産ケアを提供できる能力
		6.研究・開発能力
	○	7.倫理的意思決定能力

授　業　計　画

回	内　容	担当教員
第1回	ガイダンス、薬理学総論（作用機序・薬物動態等）	朝澤 他３名
第2回	薬理学　各論Ⅰ　・漢方薬 ・妊婦・授乳婦に頻用される薬剤（1）	
第3回	薬理学　各論Ⅱ　・妊婦・授乳婦に頻用される薬剤（2）	
第4回	薬剤情報の収集方法と読み方 ・薬剤の取り扱い（麻薬・向精神薬など）	
第5回	妊娠中の薬物療法　総論	
第6回	妊娠中の薬物療法　各論 ・授乳中の薬物療法	
第7回	新生児における発達薬理	
第8回	薬剤の処方と倫理	

事前・事後学習	事前学習：授業計画の内容をもとに、各自自習した上で授業に臨むこと。 事後学習：配布資料を復習する。また、場合によってはレポートを課す。 単位と時間数に応じた学習時間（学生便覧参照）を参考に取り組むこと。
評価の方法	筆記試験（100%）
参考図書・資料等	◎助産学講座３　母子の健康科学　第６版　我部山キヨ子他　医学書院 ◎石川洋一：妊娠・授乳とくすり Q&A　じほう 佐藤孝道、林昌洋：実践 妊娠と薬 第２版 －10,000 例の相談事例とその情報、じほう 参考図書は適宜紹介する。 ◎は授業の必携図書のため購入を必要とする。
備　考	オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。 フィードバックは適宜行う。